

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 18 年 9 月 21 日 (2006.9.21)

【公開番号】特開 2005-148567 (P2005-148567A)  
 【公開日】平成 17 年 6 月 9 日 (2005.6.9)  
 【年通号数】公開・登録公報 2005-022  
 【出願番号】特願 2003-388451 (P2003-388451)  
 【国際特許分類】

**G 0 2 B 5/30 (2006.01)**

**G 0 2 F 1/1335 (2006.01)**

【F I】

G 0 2 B 5/30

G 0 2 F 1/1335 5 1 0

【手続補正書】  
 【提出日】平成 18 年 8 月 3 日 (2006.8.3)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

環状オレフィン系樹脂を主成分とする偏光子保護フィルムであって、以下に定義する応力緩和率が 7 % 以上であることを特徴とする偏光子保護フィルム。

幅 20 mm の短冊状試験片を、引張試験機にチャック間距離が 100 mm になるようにセットし、引張速度 1 mm / min で伸長させ、9.8 MPa の引張応力がかかった時点で伸長を停止させ、停止後 3 時間経過時点の引張応力  $S_{3H}$  (MPa) を読み取り、次式により応力緩和率を算出する。

$$\text{応力緩和率 (\%)} = \{ (9.8 - S_{3H}) \div 9.8 \} \times 100$$

【請求項 2】

引張弾性率が 900 MPa 以上であることを特徴とする請求項 1 記載の偏光子保護フィルム。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 に記載の偏光子保護フィルムが偏光子の少なくとも一方の面に積層されていることを特徴とする偏光板。

【請求項 4】

液晶セルに偏光板が積層されてなる液晶表示装置であって、液晶セル、偏光子保護フィルム、偏光子、請求項 1 または 2 に記載の偏光子保護フィルムがこの順に積層されてなることを特徴とする液晶表示装置。